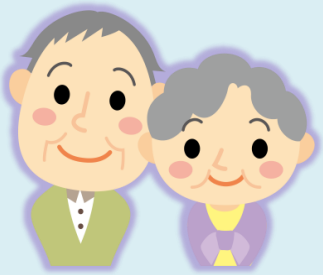
墓じまいとは？

墓を撤去したり処分したりすること。墓参りをするのが困難、墓参りをする人がいなくなるといった場合に、墓の管理者(近親者など)が行う。墓じまいをした後は、「近所の親しい所に新しい墓を購入する」「納骨堂を購入する(永代供養)」「散骨・自然葬をする」「自宅供養をする」など、様々な供養の方法がある。少子高齢化の進展により、後々墓参りをする人がいなくなるケースが増えており、それに伴い墓じまいも増えている。墓じまいをするには、墓地埋葬法で定められた手続きが必要であり、また寺院や霊園との折衝や墓石店への依頼などの障壁がある。

墓じまいで重要なことは？

お墓を管理してきてくれた墓地、寺院への配慮

墓じまいでは、上記のように埋葬方法を選ぶことは重要ですが、同じくらい大事なことはこれまで長年お墓を管理してきてくれた**墓地、寺院への配慮**です。墓じまいを決めたら墓地の管理者に申し出ますが、今のお墓が寺院墓地にある場合には、伝える時期や伝え方に配慮が必要です。寺院墓地の場合、原則として墓地の所有者は檀家でお墓を移すということは、檀家をやめることを意味します。檀家でなくなると、寺院にとってはお墓の管理費が入らなくなるだけでなく、お寺を経済的に支える人が減ることを意味します。地方の寺院にとっては、檀家離れは大きな問題で望ましいことではありませんので、単に墓じまいだけを伝えるとﾄﾗﾌﾞﾙが生じることもあります。墓じまいや改葬を事務的に伝えるのではなく、しっかり墓じまいの理由や目的、希望する時期などを伝え、これまでの感謝も伝えた上で、お寺側にきちんと納得してもらいましょう。遠方で訪問が難しい場合を除いてできれば早い段階でお寺に出向くのが理想です。その他、縁のある親戚に対しても配慮し墓じまいをする前にきちんと説明し、納得してもらいましょう。これらも墓じまいの後にﾄﾗﾌﾞﾙになってしまう可能性があります。

自分自身の心の整理

自分自身の心の整理も必要です。きちんと遺骨の埋葬方法を納得のいく方法を選んで墓じまいしたことを後悔しないようにしましょう。例えば散骨を選んで遺骨を撒いてしまったら、その後に何に対して手を合わせることが故人の供養になるか、わからなかなるということもあるかもしれません。そうならないように手元供養が出来る方法を考えるのも一つの手でしょう。遺骨だけでなく、墓石をﾌﾟﾚｰﾄにして、家に飾るという方法もあります。故人との縁を失わず、故人のことを末長く供養できると思える方法をみつけてから、墓じまいをするようにしましょう。墓石を処分する際に、専門の業者に依頼すると思いますが、その依頼先をどこにするかも重要です。